A

December

京都教師塾通信
No.5

令和２年 12 月 12 日

学 び の 広 場

京都市教育委員会　教員養成支援室

第１５期
「京都教師塾」

第３回教育実践特別公開講座
講師;総合育成支援課　小田 健司　首席指導主事
「総合育成支援教育を考える ～「合理的配慮」という考え方～」

今回は総合育成支援課の小田健司先生に，国と京都市の特別支援教育（京都市では総合育成支援教育）の取組の経過および現状，合理的配慮やユニバーサルデザイン化の取組について教えていただきました。義務教育段階の全児童生徒数が減少傾向であるのに対して特別支援教育の対象となる子どもが増加傾向にある中，多様な学びの場の整備，充実した校内支援体制の整備等，学校全体で子どもの自立や社会参画に向けた適切な指導及び必要な支援を行うことが大切です。学校における合理的配慮の例もいくつか紹介してくださいましたが，果たして支援を必要とするのは障害のある子どもだけなのでしょうか。そうではなく，ユニバーサルデザインを意識した教育を行うことで，支援の必要な子どもたちには「ないと困る支援」となり，どの子どもにもあると「便利な支援」となること，つまり，授業のユニバーサルデザイン化はどの子どもにもわかりやすいものとなることに，改めて気付いたことと思います。前回の特別公開講座の，日本語指導が必要な子どもたちとの支援の考え方ともつながるお話でしたね。

第４回京都市教育学講座　講師;学校指導課 中澤　明美 首席指導主事
「生きる力を育むためのキャリア教育」

第４回京都市教育学講座では，学校指導課の中澤首席にご講義いただきました。キャリア教育は特別な教育ではないこと，また「人生百年時代に社会で必要とする力」と「学校教育で育てたい力」とが同じだということは，生き方を考えるキャリア教育が今学校現場で必要なのだということを改めて認識できたことと思います。

京都市ではキャリア教育を「生き方探究教育」と呼んでいます。生き方探究教育でめざす子どもの姿は，基礎的汎用的能力を育てることです。そこで，京都市ならではの「京都まなびの街生き方探究館」や「生き方探究パスポート」の取組の具体についてお話しくださいました。

全体会の振り返りでは，何人かの塾生がホールフロアまで出て質問や感想等，勇気を出して話してくれました。その後の分散会では，「キャリア教育の視点とは？」というテーマで話し合いました。キャリア教育とは「生き方を考える教育」「生き方を考え合う教育」だと頭では理解していても，具体的にどのような活動や取組を通して生きる力をつけることができるのか，まだイメージがしにくかったかもしれません。学校実地研修等で現場を見ていく中で，今回学んだキャリア教育の視点を頭の片隅に置いておくと，新たな見方・考え方ができるのではないでしょうか。

仲間のレポートに学ぶ

第４回京都市教育学講座【講義】
「生きる力を育むためのキャリア教育」

毎回活発に話合いを進めています！

２組

３組

キャリア教育とは何かを考えたときに，難しく考えてしまっていたけれど，生き方を考える教育・生き方を考え合う教育であることが分かった。生き方を考えたり，考え合ったりすることは，日常生活でも十分にできることだと考える。授業の中であったり，友達と過ごす中であったりと，考える場面は非常にたくさんあると思った。例えば，けんかが児童同士で起こったときに，やった側・やられた側が納得できるように，けんかを通じて勉強できたなと思えるようにしていくことが大事だと思う。また，生き方探究パスポートで，小学校から高等学校までを繋ぐことは，児童の将来のことを思ってしっかり勉学や部活動に励むよう作られたものだと考える。

分散会では，グループ内で色々な意見が挙げられ，どれも大切だと思う内容だったが，１つ自分が印象に残った意見は，「様々な人と出会い，協力して，様々な出来事を主体的に考えていく」という意見だ。キャリア教育を進めるにあたり，自分一人では絶対にできない事だと考えており，色々な人と協力して作りあげることが大切だと思う。運動会や学習発表会などの行事も実行してくれる人がいたり，話をまとめてくれたりする人がいるからこそ成り立っていることに気付かせたい。決して一人だけの力ではなく，チームでまとめ，発信する力があるからこそ行われているのだと知って欲しい。

今後キャリア教育を進めるにあたって，児童たちには，色々な人と関わり，たくさんの経験をして欲しいと思う。たくさんの人と関わったり経験したりすることで，自分の経験値を高めていけると考える。そして，人を思いやる力を付けて，相手がどう思っているのか，考えているのかを想像して動くことの出来る児童になって欲しいと思う。

保護者を対象とした家庭教育学級で，「親は，子どもに，『あんたも働いたら分かるわ』とか，『そんなことをしていたら立派な大人になれないよ』とか言いますが，子どもは，働くイメージが分からなければ，立派な大人のイメージもなかなか分からないと思います」と話したことがありました。キャリア教育は，大上段に理想的な大人の姿を振りかざすのではなく，子どもが，こういう大人になりたいと思っていることに対して，また，子どもが，将来の社会人・職業人，一人の人間として，生きていく上で何が大切なのかということを，親や教師が意識して子どもに関わることが大切だと思います。「キャリア教育とは新しい教育活動を指すものではない」という発信によって，学校現場でも，従来の教育活動のままでよいと誤解されたり，「体験活動が重要」という側面のみをとらえて，職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が見られることが指摘されました。大人になった時，どのような能力が必要になるのかということを，目の前の子どもからイメージすることが大切です。それで教育活動を見直した時，どのようなことを意識して，具体的に何ができるかを考え，実践に結び付けることが大切ではないでしょうか。

４組

６組

１０組

補講（12/1）